

後編

05 人類の歴史を終わらせないために

フィデル・カストロ

人類は20万年足らずの歴史しかない。それまではすべてが自然のままでした。30億年以上にわたって地球上で発達してきた生命の法則が、自然の法則を満たしていたのです。人間、つまりホモ・サピエンスという知的生命体は、たかだか80万年までしか遡れない。

200年前は、すべてが事実上未知の世界でした。今日、私たちは種の進化を支配する法則を知ることができます。科学者、神学者、そして最も敬虔な宗教家でさえも、当初はダーウィン理論に反対していた。

地球上の誰もが、人類という種が消滅することを望んでいません。だからこそ、私は核兵器だけでなく、通常兵器もなくすべきだと考えています。イラン人にもイスラエル人にも、区別なくすべての民族に平和の保証を提供しなければならない。天然資源は必要な人全てに分配されるべきです。

そうすべきです！ そうなるという意味ではありませんし、簡単にできるということでもありません。しかし、再生可能なエネルギー源をすべて開発したとしても、資源が限られた世界では、人類にとって「分配」以外の選択肢はないでしょう。

もうすぐ70億人の人口ですから、人口政策を実施する必要があります。私たちは多くのものを必要としています。そして、私たちは考えます。人間には困難を理解し、それを克服する能力があるのだろうか？

チョスドフスキー

あなたが言ったことで、トルーマンについての言及は非常に重要です。

トルーマンは、広島は軍事基地であり、民間人に被害が及ぶことはないと言っていました。

つまり軍事関係者以外の死者が出たとしても、それはたまたまの巻き添え被害に過ぎないというわけです。このような「巻き添え被害」という概念は、被害を小さく見せかけるのに大変便利な考えなので、1945年以来今日に至るまで、アメリカの核ドクトリンにおいて連綿と続いています。

それは現実に起きていることの説明ではなく、軍事作戦とプロパガンダをくつつけるための虚構の概念です。

1945年にはこう言われていました。

広島が軍事基地であったと断定し、人口の密集する大都市であったという事実を否定し、その上で「10万人を殺すことで人類を救おう」(Let's save

humanity by killing 100,000 people) と呼びかけたのです。しかし現在では、このような粗暴なウソはより洗練されたフレーズに代わり、核兵器はより進化しています。

つまり、私たちは人類史という時間軸と、地球レベルという空間軸での核戦争の脅威を扱っているのです。米国の政治的・軍事的言い分の根底には大嘘とペテンが隠されている。彼らは世界規模の大災害へと私たちを導くでしょう。そして最後に自分たちのついたウソでみずからも大怪我をするでしょう。

あなたは、「知的な人類」は 20 万年前から存在していると言いました。しかし、その知性が、メディア、情報機関、金融機関といったさまざまな機関に取り込まれ、今、私たちを滅ぼそうとしているのです。

私たち人類は自分たちの作り上げた嘘を信じ、核戦争という最後の日へと自らを導いています。アインシュタインが明確に述べているように、次の戦争が最後の戦争になることを理解せずに…。核戦争は決して人類の存続を保証するものではなく、世界と人類に対する脅威なのです。

フィデル・カストロ

教授、とても良い言葉です。巻き添えとなるのは、人類かもしれません。戦争は犯罪であり、そのように記述する新しい法律は必要ありません。ニュルンベルク以来、戦争はすでに犯罪であり、人類と平和に対する最大の犯罪であり、あらゆる犯罪の中で最も恐ろしいものであると考えられてきたからです。

06 核戦争だけでなく戦争行為そのものに反対すること

チョスドフスキー

ニュルンベルクのテキストには、はっきりとこう書かれています。「戦争は犯罪行為であり、平和に対する究極の戦争行為である」

ニュルンベルク文書のこの部分はよく引用されます。

第二次世界大戦後、連合国はこれを敗戦国に対して使おうとしました。それが妥当でないと言っているわけではありません。しかしドイツや日本に与えた犯罪を含め、連合国側が犯した罪については一切触れられていないことも確かです。とくに核兵器使用の罪がそれに当てはまるでしょう。

戦争は核戦争以前に、私にとって重大な問題です。その際、戦争の犯罪化は基本的な側面であると私には思われます。私は戦争の廃止について話しているのです。戦争は犯罪行為であり、排除されなければならないのです。

問題は、彼らが司法制度や裁判所も支配していることです。だから、裁判官

も戦争を支持するならば犯罪者なのです。その際、私たちにできることは何でしょうか？

フィデル・カストロ

核戦争に反対することは「思想の戦い」の一部です。世界が核による破局に突入しないよう行動すること、要求すること、それは生命を守ることです。もし人間が自分の存在、自分の人々、自分の愛する人たちの存在を実感していれば、米軍の指導者たちでさえも、核兵器廃絶の実現へ向けて行動するでしょう。

たしかに彼らは命令に従うように軍隊人生で教え込まれている。その教えの中には戦術核や戦略核の使用による大量殺戮もありえます。彼らは命令に従うよう教えられるが、その命令の中には、戦術核や戦略核など大量殺戮兵器も少なくないからです。

これに対し戦争に反対することは「政治の闘い」です。戦争のすべてが狂気の沙汰である以上、政治家は戦争の真実を国民に伝える義務から免れることはできません。

チョスドフスキー

あなたが言いたいのは、次のようなことだと思います。

現在、人類史的に大事な議論は、人類の未来を脅かす核戦争の危険に焦点を当てることである。いっぽう戦争の発生を防ぎ、世界平和を確立するためには戦争を回避するための政治的・外交的戦略が必要になる。

さらに戦争の発生する条件を抑え込むためには戦争の理由、社会や経済について議論し、戦争の原因を解決しなければならない。そうやって初めて、基本的なニーズに基づいた生活の維持・向上を計画することができるということですね。

フィデル・カストロ

そのとおりです。私たちが行ったすべての分析から見て、資本主義は生き残ることができません。いずれ別のシステムへの転換が必要です。ただ、資本主義システムと市場経済は人間の生活を窒息させるものですが、一夜にして消滅することはないでしょう。かなり長い移行期がある。

それに対して、武力に基づく帝国主義、核兵器、そして現代技術により殺傷能力を著しく高めた通常兵器は、人類の生存を望むなら、どうしても早期に消滅させなければならないのです。

07 メディアから発せられるプロパガンダにどう立ち向かうか

チョスドフスキー

さまざまな出来事に与えられるメディアの報道と、メディアから発せられるプロパガンダの問題があります。

まず最初の問題はメディアの不作為です。あなたがおっしゃるように、人類に対する脅威があれば、世界中の新聞の一面を飾るべきです。たとえ下級将校であっても、その結果がどうなるかを知らないで核兵器の発射ボタンを押してしまえば、それによって人間社会の全体が犠牲となりかねないからです。

ここでは、メディア、特に西側諸国が、今日の世界に潜在的に影響を与える最も深刻な問題をいかに隠しているかについて話して見たいと思います。

第一に、メディアは核戦争の危険性を真剣に受け止めなければなりません。ヒラリー・クリントンもオバマも、イランに対するいわゆる予防戦争で核兵器を使うことを考えた事があると発言しているからです。

私たちはどうすればいいのでしょうか。イランという国は、少なくとも目下、誰にとっても危険のない国です。そのような国に対する一方的な核兵器の使用発言について、あなたはどう思いますか？ あなたならヒラリーとオバマにどう答えますか。

フィデル・カストロ

私はその件に関して2つのことを知っています。まず最初は「何が議論されたのか」ということです。これは最近明らかになったことですが、米国の安全保障会議の中で遠大な議論が行われたことです。これらの議論がどのように行われたかは、ボブ・ウッドワード記者が明らかにしました。バイデン、ヒラリー、オバマ...、彼らが議論の中でどのような立場をとったのかがわかったのです。

もう一つの事実、誰が戦争に強く反対したのか。**軍部と議論できたのはオバマだけだったのです。そして、そこまでして彼に助言を与えたのは、共和党員コリン・パウエルだけであった。**彼はオバマがアメリカの大統領であることを思い出させ、関係者にアドバイスを促した。私たちは、このメッセージがすべての人に届くようにしなければならないと思っています。

さて、これらの情報を多数に知らしめる方法は何だろうか。私たちは何か編み出さなければなりません。十二使徒の時代、彼らには何百年も先があった。しかし、私たちには先がないのです。

08 米国、カナダ、欧州の反戦運動は分裂している

チョスドフスキー

脅威はイランからもたらされると考える人もいれば、彼ら（イラン人）はテロリストだと言う人もいて、**運動そのものに多くの誤情報が存在する**のです。

それに、世界社会フォーラムでは、核戦争の問題は、左派や進歩派の人々の間の主要な議論にはなっていません。冷戦時代には、核戦争の危険性が叫ばれ、人々はそのような意識を持っていました。

前回、ニューヨークで開催された国連の核不拡散に関する会議では、非国家主体、テロリストによる核の脅威が強調されました。オバマ大統領は、核攻撃の潜在能力を持っているアルカイダが脅威であると言いました。オバマ大統領の演説を読むと、テロリストは小型の核爆弾、いわゆる「汚い爆弾」を製造する能力を持っていると示唆しています。これらは[問題の歪曲]と[強調事項のシフト]の方法です。

フィデル・カストロ

オバマの部下が吹き込んで、彼に信じさせたのはそういうことなのです。問題は、あなたが語っていることが真実かどうかということです。ある特定の問題に関連してこれらの情報を収集する場合、集められた事実の集合の中に真実が存在しているかどうかの問題になります。私たちは本質の開示に集中しなければならないと思います。

チョストフスキー

キューバ革命に関連する重要な側面があるので、質問させていただきます。私の考えでは、人類の未来に関する議論もふくめて、社会全体が核戦争の脅威にさらされるなら、何らかの形で、行動だけでなく、思想のレベルでも革命を起こす必要がある。この点についていかがでしょうか。

フィデル・カストロ

その議論は実践的なものです。核戦争をめぐる真実を拡散するためには、「情報通の大衆」(the informed masses) にどうやって接触できるかを考えなければなりません。その解決策は新聞ではありません。インターネットです。インターネットは安価で、よりアクセスしやすい。通信社でもなく、新聞社でもなく、CNNでもなく、インターネットで毎日配信されるニュースレターです。私はインターネットを通じて毎日100ページ以上に目を通しています。今回もそういうニュースを探してあなたに接触しました。

ところで昨日、あなたは、アメリカでは少し前に世論の3分の2が対イラン戦争に反対していたのに、今日は50数パーセントが対イラン軍事行動に賛成していると主張していましたね。

チョストフスキー

ここ数ヶ月、世間ではこう言われていました。 こんな看板がニューヨークで出ていました。「確かに核戦争は非常に危険であり、脅威であるが、その脅威はイランからやってくる」と。そのメッセージの要点は、イランを世界の安全保障に対する脅威と宣伝することでした。考えてみればまったくおかしな話で、イランは核兵器を持っていない。そのため核の脅威は現実には存在しないのです。

とにかくそういう状況で、代替メディアの限られた流通経路の中で、このプロセス（メディアの偽情報）を逆転させる能力は限られています。

フィデル・カストロ

それでも私たちは闘わなければならない

チョストフスキー

そう、私たちは闘い続けている、そのメッセージは「核戦争になったら、巻き添えになるのは人類全体である」ということです。インターネットは戦争を回避するための働きかけの場として機能し続けるでしょう。

なぜなら、人類全体が米国とその同盟国の核兵器によって脅かされているからです。なにせ彼らは核兵器を使うつもりだと公言しているのですから。

フィデル・カストロ

もし反対がなければ、抵抗がなければ、彼らは核兵器を使用するでしょう。彼らはみずからに騙されている。軍事的優位と現代技術に酔いしれ、自分たちが何をしているのか分かっていない。彼らはその結果を理解していない。彼らは、優勢な状況を維持できると信じている。しかし、それは不可能です。

チョストフスキー

あるいは、これが単なる通常兵器の一種であると信じている。

フィデル・カストロ

そうです。彼らは騙されていて、まだその武器が使えると信じているのです。

アインシュタインが「第三次世界大戦はどんな武器で戦うかわからないが、第四次世界大戦は棒や石で戦うだろう」と言いました。そのことを、彼らは覚えていないのです。自分たちが別の時代にいると信じている。

そこで私はこう付け加えた。「その棒や石を扱う人がもはやいないのです。それが現実なのです。」

チョストフスキー

核の問題はもう一つあります。核兵器の使用は、必ずしもある日突然に人類の終焉をもたらすわけではないということです。なぜなら、放射性物質の影響は蓄積されるからです。

核兵器にはいくつかの異なる結果があります。ひとつは、広島現象である戦場での爆発と破壊、そしてもうひとつは、時間とともに増加する放射線の影響です。

フィデル・カストロ

ラトガース大学（ニュージャージー州）のアラン・ロボックが、反論の余地のない形で示しました。これによると、核兵器保有国8カ国のうち下位2カ国が戦争を起こすだけで、「核の冬」が到来する。スーパー・コンピューターを利用した計算で明らかにされました。

さらに8カ国が保有する25,000発の戦略核のうち100発が爆発すれば、噴煙により日光は遮断され、地球上の気温は氷点下となります。その結果、長い夜が約8年間続くでしょう。

私は国際会議の席上で光栄にも彼と会話することができました。彼は研究結果のあまりの恐ろしさに「恐慌状態」に陥ったそうです。そして「考えたくない、なかったことにしたい」と大声で叫んだそうです。

09 通常戦争が制御不能な核戦争へ転化する道すじ

ある仮定から入りましょう。イランで戦争が起きれば、必然的に核戦争になり、世界規模の戦争になります。だから昨日、安保理で事実上「戦争やむなし」を意味するような合意を認めるのはおかしいと言ったわけです。わかりますか？

とりあえず今のところ、イラン人が武力行使で対応することはなさそうだが、実際に戦闘が始まれば、それが局地的なものにとどまることはないでしょう。

もしそれが通常の戦争であれば、それはアメリカやヨーロッパが（負けることはないにしても）勝てない戦争です。その戦争の行き詰まりを強行突破し

よとすれば、核戦争に発展する可能性が高いと私は考えている。その際、仮に米国が戦術核の使用を誤れば世界中が混乱し、やがて米国は事態をコントロールできなくなるでしょう。

オバマはどうするでしょうか？ 彼は何をすべきかについて、ペンタゴンと熱い議論を交わします。アメリカやイスラエルの兵士が数百万人のイラン人と戦っている国の大統領、オバマの状況を想像してみてください。

サウジアラビアはイランで戦うつもりはないし、パキスタンやその他のアラブやイスラムの兵士も戦わないだろう。そんな時、イランに対して戦術核を使えばイラン人が諦めると考えるのは間違いです。世界には激震が走るだろうが、その時はもう手遅れかもしれない。

チョストフスキー

彼らは通常の戦争に勝つことはできない。

フィデル・カストロ

つまり、彼らは勝つことができない。

チョストフスキー

彼らは国全体を破壊することができるかも知れません。しかし軍事的にみて、彼らが勝つことはできません。

フィデル・カストロ

あなたがおっしゃる問題は複合的なものです。それは何よりも政治的な判断です。軍事的に破局に向かう時系列の中で、その国を破壊し続けることにどのような経済的見返りがあるのでしょうか。国民の前にそれを提示できるのでしょうか。

アメリカ国民はいずれ反応するでしょう。アメリカ国民はしばしば反応が鈍いですが、最後には必ず反応します。アメリカ国民は自国の犠牲者、死者に反応するのです。

ベトナム戦争では、多くの人がニクソン政権を支持しました。彼はキッシンジャーに同国での核兵器の使用を提案したこともありました。しかし、彼は核攻撃という犯罪的な手段をとることを思いとどまったのです。（編注：ニクソンはベトナムからの「名誉ある撤退」honorable retreat を唱えて大統領に当選した）

ニクソンは、アメリカ国民から戦争を終わらせる義務を負っていた。交渉し、ベトナム南部を引き渡さなければならなかった。しかしアメリカ国民はそれを支持した。

10 戦争からは何も得られない

戦争が始まれば、イランでは多くの人命が失われ、石油施設の大部分は破壊されるでしょう。私のメッセージは、今の状況では、イラン人に理解してもらえないかもしれません。

もし戦争になったら、アメリカもイランも世界も、何も得られないというのが私の考えです。通常戦争だけにとどまるのはありえないことですが、もしそうなれば、アメリカは取り返しのつかないほど負けるでしょう。さらに戦いが通常戦争にとどまらず世界規模の核戦争に発展すれば、全人類が敗者となるのです。

チョストフスキー

イランは、相当な通常戦力を有しています。陸軍だけでなく、ロケット弾も相当なものだ。イランには自衛能力がある。

フィデル・カストロ

銃を持った男が一人でも残っていれば、その間、彼はアメリカが倒さなければならぬ敵である。

チョストフスキー

そして銃を持った男は数百万人いる。

フィデル・カストロ

そしてその数百万人は、多くのアメリカ人の命を犠牲にしなければ収まらないだろう。残念ながら、アメリカ人はそのときになってから初めて反応するでしょう。もし今反応しなければ、次に反応するのは、すでに手遅れになったときでしょう。私たちはできる限り広範囲にこのことを明らかにしなければなりません。

キリスト教徒が迫害され、カタコンベに連れ去られたことを思い出してください。殺され、ライオンのエサとして投げ棄てられた。それにもかかわらず、彼らは何世紀にもわたって迫害に耐え、自分たちの信念を貫いた。しかし、彼らはその後も自分たちの信念を守り続け、後にムスリムにも同じことをしました。そうした歴史の教訓がなぜ忘れ去られようとしているのでしょうか。

チョストフスキー

イランの問題に戻りましょう。私は、世界の世論が戦争のシナリオを理解するうえで非常に重要だと考えています。あなたは、アメリカが戦争に負け

るとはっきり言っていますね。イランはアフガニスタン駐留の NATO 軍よりも多くの通常戦力を保有しています。

フィデル・カストロ

アメリカはイランに 450 ヶ所の攻撃目標を設定しています。そのうちのいくつかは戦術核弾頭で攻撃しなければならないとされています。それらは山間部にあり、地下に建設されているためです。これらのポイントでは多くのロシア人職員と他国籍の人々が死ぬでしょう。多くのアメリカ人が支持し、メディアによって無責任に宣伝されているこの一撃を前にして、イランはどのように対抗するのでしょうか。

彼らがどのような戦術をとるかはわからないが、もし自分が彼らの立場だったら、軍隊を集中させないことが最も望ましいと思います。なぜなら、軍隊が集中すれば、戦術核兵器による攻撃の犠牲になってしまうからです。それは一瞬、イラン軍が敗走し四散してしまったように見えるかも知れません。しかし分散はしているが、孤立はしていない。約 1000 人の大隊規模のユニットが適切な対空兵器を持って配備されています。

すべての戦闘部隊は、さまざまな状況下で何をしなければならないかをあらかじめ知っておかなければならない。地形は砂地で、どこに行っても塹壕に潜って身を守る必要があり、常に構成員の間に最大限の距離を保っていました。

アフガニスタンもイラクも、イランでぶつかるものと比べれば、「冗談のようなもの」でしょう。とにかく恐ろしい相手です。

(ここで記事は切れる

The interview was conducted in Spanish.

Our thanks and appreciation to Cuba Debate for the transcription as well as the translation from Spanish.

蛇足ながら、下記も参照願います。いつの時代にも、どこの世界でも、同じようなことを考える人はいるものだとおもいます。人はそれを「賢者」と呼ぶのでしよう。(SS)

[マハティール、第三次世界大戦を予言](#)